

**令和8年度
那珂川市教育委員会
点検・評価報告書
(令和7年度対象)**

令和8年7月
那珂川市教育委員会

目 次

第1章 点検・評価の趣旨

1	はじめに	1
2	教育の基本目標	1
3	点検・評価の対象と方法	1
4	教育委員会	1
5	指標の達成状況一覧	4

第2章 具体的施策の点検・評価

1	多様な市民の人権を尊重した社会をつくる	
◎	人権・同和教育と啓発の推進	
(1)	地域における人権・同和教育と啓発の推進	7
(2)	学校における人権・同和教育と啓発の推進	8
2	健やかで「生きる力」を持った子どもが育つまちをつくる	
◎	学校教育の充実	
(1)	確かな学力の育成	9
(2)	豊かな心の育成	11
(3)	健やかな体の育成	12
(4)	幼児教育	13
(5)	特別支援教育の充実	14
◎	地域とともにある学校づくりの推進	
(1)	学校、家庭、地域等との連携・協働	15
◎	教育環境の充実	
(1)	学校施設の整備・充実	16
(2)	専門性の高い教員の育成	17
(3)	就学の支援	18
3	市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる	
◎	社会教育の推進	
(1)	学校を核とした地域づくりの推進	19
(2)	子どもの居場所の確保	20
(3)	家庭の教育力の向上	21
(4)	青少年の健全育成	21
(5)	社会教育関係団体の連携強化	22
(6)	国際交流の推進	22

◎ 生涯学習の推進

(1) 多様な学習機会の提供		23
(2) ミリカローデン那珂川、市立公民館などの施設の整備・充実		24
(3) 読書活動の推進		25

◎ スポーツの推進

(1) 運動公園の整備		26
(2) スポーツ施設の整備		26
(3) 市民スポーツ活動を支える団体の育成		27

4 歴史・文化・芸術を通じた多彩な交流を広げる

◎ 文化・芸術活動の充実

(1) 文化・芸術団体の育成・支援・連携		28
----------------------	-------	----

◎ 歴史遺産の保存とまちづくりへの活用

(1) 歴史・文化の保護と継承		29
(2) 文化財を活用したまちづくりの推進		29

第3章 点検・評価の総括

1 多様な市民の人権を尊重した社会をつくる		30
2 健やかで「生きる力」を持った子どもが育つまちをつくる		30
3 市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる		31
4 歴史・文化・芸術を通じた多彩な交流を広げる		31

第4章 学識経験者による講評

1 報告書全体を通じた講評		32
2 個々の施策の講評		
(1) 多様な市民の人権を尊重した社会をつくる		32
(2) 健やかで「生きる力」を持った子どもが育つまちをつくる		32
(3) 市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる		33
(4) 歴史・文化・芸術を通じた多彩な交流を広げる		33

第1章 点検・評価の趣旨

1 はじめに

那珂川市教育委員会事業点検・評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、教育委員会が、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことが義務づけられていることに伴い、実施しているものです。

点検・評価は、「那珂川市教育施策要綱」に掲げる教育の基本目標の実現性や住民の視点にたった効果的な教育行政の推進が図られているかについて、検証することを目的として実施しています。

また、その内容を点検・評価報告書としてとりまとめ、公表することで、住民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進に寄与しています。

2 教育の基本目標

9つの基本施策の柱を設定し、教育行政を推進します。

- ◎ 人権・同和教育と啓発の推進
- ◎ 学校教育の充実
- ◎ 地域とともにある学校づくりの推進
- ◎ 教育環境の充実
- ◎ 社会教育の推進
- ◎ 生涯学習の推進
- ◎ スポーツの推進
- ◎ 文化・芸術活動の充実
- ◎ 歴史遺産の保存とまちづくりへの活用

3 点検・評価の対象と方法

対象

令和7年度に実施した主要な事業を対象とする。

方法

教育施策要綱における施策ごとに、対象事業の管理及び執行状況について、点検・評価を行う。

施設

市立幼稚園及び小・中学校（なお、幼稚園1園、小学校7校、中学校3校）、ほか市内施設

4 教育委員会

組織・構成

教育委員会は、「地方自治法」及び「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県及び市町村等に置かれる行政機関のひとつで、常勤の教育長と非常勤の委員（以下「教育委員」という。）をもって組織される執行機関です。

月1回の定例委員会などで教育行政の重要事項や基本方針等を合議制で決定します。

教育委員の任命

地方公共団体の長が、議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は4年で、再任することもできます。

教育長

地方公共団体の長が、議会の同意を得て任命します。教育長の任期は3年で、再任することもできます。教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどり、また事務局の事務を統括し、所属の職員を指揮監督します。

事務局

教育長の統括のもと、教育委員会の権限に属する事務を処理します。事務局の組織は教育委員会規則で定められています。

教育委員会の活動状況（教育委員会会議）

- ①令和7年度の開催回数 定例委員会 12回
- ②令和7年度の主な付議事項

開催日	区分	主な付議事項
令和7年4月28日	定例	○議案事項なし
令和7年5月26日	定例	○令和7年度那珂川市一般会計補正予算(第3号) に関する教育委員会の意見の申出について
令和7年6月25日	定例	○那珂川市指定有形文化財の指定について
令和7年7月23日	定例	○令和7年度教育に関する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価（令和6年度対象）について
令和7年8月28日	定例	○令和7年度那珂川市一般会計補正予算（第4号）に関する教育委員会の意見の申出について
令和7年9月30日	定例	○議案事項なし
令和7年10月29日	定例	○那珂川市公の施設に係る指定管理者の指定（ミリカローデン那珂川屋内プール）についての議決内容の一部変更に関する教育委員会の意見の申出について
令和7年11月20日	定例	○令和7年度那珂川市一般会計補正予算(第5号) に関する教育委員会の意見の申出について
令和7年12月24日	定例	○岩戸小学校後野分校及び那珂川中学校後野分校の二学期制の実施について
		○那珂川市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程の制定について
令和8年1月28日	定例	○那珂川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について
		○那珂川市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程の制定について
		○那珂川市総合運動公園の設置及び管理に関する条例の制定に関する教育委員会の意見の申出について
		○令和8年度那珂川市一般会計歳入歳出予算に関する教育委員会の意見の申出について
令和8年2月20日	定例	○議案事項なし
令和8年3月26日	定例	○令和8年度那珂川市教育施策要綱の制定について
		○令和8年度那珂川市教育委員会人権・同和教育及び啓発基本方針の策定について
		○那珂川市教育委員会公告式規則による掲示場の掲示期間等に関する規程の制定について
		○那珂川市不登校対策基本方針の改訂について
		○那珂川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則の制定について
		○那珂川市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程の制定について
		○那珂川市立小・中学校教職員の働き方改革に関する方針の改定について

③その他の活動

- ・移動教育委員会

安徳小学校を訪問し、授業参観及び教職員との意見交換会を実施。

- ・研修会等

九州地区市町村教育委員会研修大会、筑紫地区教育委員会教育委員研修会（那珂川市開催）、福岡県市町村教育委員会教育委員研修会等に参加。

- ・各種行事等

教職員赴任式、入学式、卒業式、運動会・体育会、同和問題教育講演会、市民文化祭等に参加。

5 指標の達成状況一覧

《達成状況指標》

- ◎ 100% 目標達成、もしくは既に目標達成済み
 ○ 75%
 △ 50%
 ▲ 25%

頁	指標	R5実績値	R6実績値	R7実績値	目標値	達成状況
P7	【地域における人権・同和教育と啓発の推進】 ○那珂川市同和教育研究協議会加入率	98.34%	98.43%	95.07%	94.19%	◎
P8	【学校における人権・同和教育の推進】 ○全国学力・学習状況調査 項目「人が困っているとき進んで助けている」	小 93.1	小 95.8	小 92.2	小 95.0 (毎年度)	○
		中 88.4	中 94.6	中 93.5	中 90.0 (毎年度)	◎
	○全国学力・学習状況調査 項目「いじめはどんな理由があってもいけないこと」	小 98.9	小 97.6	小 97.9	小 100 (毎年度)	○
		中 97.0	中 97.0	中 97.7	中 100 (毎年度)	○
P9	【確かな学力の育成】 ○全国学力・学習状況調査	小／国語 10.0 (全国平均 9.4)	小／国語 10.3 (全国平均 9.5)	小／国語 9.8 (全国平均9.4)	全国平均+0.5 ポイント以上 (毎年度)	○
		小／算数 10.3 (全国平均 10.0)	小／算数 10.6 (全国平均 10.1)	小／算数 9.4 (全国平均9.3)	全国平均+0.3 ポイント以上 (毎年度)	○
		中／国語 10.8 (全国平均 10.5)	中／国語 9.2 (全国平均 8.7)	中／国語 7.9 (全国平均7.6)	全国平均+0.4 ポイント以上 (毎年度)	○
		中／数学 7.9 (全国平均 7.6)	中／数学 8.9 (全国平均 8.4)	中／数学 7.9 (全国平均7.2)	全国平均+0.5 ポイント以上 (毎年度)	◎
P11	【豊かな心の育成】 ○相談・指導を受けていない不登校児童生徒の割合	5%	0%	0%	20%以下 (毎年度)	◎
P12	【健やかな体の育成】 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果	小／男子 53.2 (全国平均 52.59)	小／男子 52.57 (全国平均 52.53)	小／男子 54.45 (全国平均53.02)	全国平均 +0.9 ポイント以上 (毎年度)	◎
		小／女子 54.77 (全国平均 54.28)	小／女子 52.71 (全国平均 53.92)	小／女子 53.43 (全国平均53.97)	全国平均 +0.2 ポイント以上 (毎年度)	▲
		中／男子 45.29 (全国平均 41.32)	中／男子 45.82 (全国平均 41.86)	中／男子 44.21 (全国平均42.20)	全国平均 +4.7 ポイント以上 (毎年度)	▲
		中／女子 49.03 (全国平均 47.22)	中／女子 49.54 (全国平均 47.37)	中／女子 49.52 (全国平均47.58)	全国平均 +3.3 ポイント以上 (毎年度)	△
	○学校栄養職員の配置校（県費、市費）	10校	10校	10校	10校 (毎年度)	◎
	○異物混入件数（重大案件）	1件	0件	0件	0件 (毎年度)	◎
	○アレルギー事故件数	0件	0件	1件	0件 (毎年度)	▲

頁	指標	R5実績値	R6実績値	R7実績値	目標値	達成状況
P13	【幼児教育】 ○園外保育の回数	13回	24回	21回	15回 (毎年度)	◎
P14	【特別支援教育の充実】 ○適切な就学先決定状況	100%	100%	100%	100% (毎年度)	◎
P15	【学校、家庭、地域等との連携・協働】 ○学校運営協議会の年間実施平均回数 (各小・中学校)	-	-	4.7回	4回	◎
P16	【学校施設の整備・充実】 ○児童生徒1人1台端末の整備状況	-	-	100%	100% (毎年度)	◎
P17	【専門性の高い教員の育成】 ○教員がICT機器の使い方を学ぶために必要な 研修の実施	-	100%	100%	100% (毎年度)	◎
	○年休取得日数	16日	16日	13日	18日 (毎年度)	△
P19	【学校を核とした地域づくりの推進】 ○地域主催の放課後子供教室実施回数	15回	15回	15回	15回	◎
P20	【子どもの居場所確保】 ○放課後子供教室開催回数	266回	366回	380回	269回	◎
P21	【家庭の教育力の向上】 ○学級生登録者数	61人	61人	52人	100人 (毎年度)	△
P21	【青少年の健全育成】 ○巡回パトロール実施回数	74回	81回	79回	84回 (毎年度)	○
P22	【社会教育関係団体の連携強化】 ○社会教育関係団体の連携回数	4回	3回	3回	5回	○
P22	【国際交流の推進】 ○国際文化交流サークル事業への参加者数	90人	93人	113人	100人	◎
P23	【多様な学習機会の提供】 ○高砂大学受講者数	106人	111人	117人	244人	▲
P24	【ミリカローデン那珂川、市立公民館などの施設の 整備・充実】 ○住民意識アンケート満足度 (ミリカローデン那珂川の利用経験)	77.3%	89.2%	76.0%	80%以上 (毎年度)	○
	○市立公民館利用人数	52,691人	53,490人	50,985人	72,584人	△
P25	【読書活動の推進】 ○本を読むことが「好き」「どちらかといえば 好き」な児童生徒の割合 (子どもの読書活動活動に関するアンケート)	85.8%	84.6%	82.8%	83.6%	○
P26	【運動公園の整備】 ○総合運動公園の供用開始 (供用開始に至るまでの進捗率)	進捗率20% (用地買収ほぼ完了)	進捗率25% (事業者募集資料作成)	進捗率30% (事業者契約)	進捗率100% (供用開始)	▲
P26	【スポーツ施設の整備】 ○施設の利用者数(合計)	235,761人	235,534人	223,518人	254,600人	○
P27	【市民スポーツ活動を支える団体の育成】 ○スポーツ大会の参加者数(合計)	2,149人	2,083人	1,903人	3,000人	△

頁	指標	R5実績値	R6実績値	R7実績値	目標値	達成状況
P28	【文化・芸術団体の育成・支援・連携】 ○事業の参加団体数	-	-	197団体	190団体	◎
P29	【歴史・文化の保護と継承】 ○協議の実施回数	1回	2回	5 回	2回	◎
P29	【文化財を活用したまちづくりの推進】 ○啓発事業等への参加者数	2,400人	2634人	8,727人	1,966人	◎
	○連携して実施した文化財保護事業数	1件	2件	2 件	2件	◎

<達成状況集計>

◎	19
○	11
△	5
▲	5
合計	40

第2章 具体的施策の点検・評価

1 多様な市民の人権を尊重した社会をつくる

人権・同和教育と啓発の推進

人権・同和教育の充実を図り、人が人として尊重される人権意識を育むため、地域及び学校における人権・同和教育と啓発を推進します。

(1) 地域における人権・同和教育と啓発の推進		担当課
		社会教育課
○ 市民及び社会教育関係団体等への人権・同和教育を推進します。		
主な取組み	実績	
① 那珂川市同和教育研究協議会の周知と会員の確保に取り組めます。	○ 行政部会同和研究協議会 (会員数) 261 人、加入率 97.75% (那珂川市役所職員) ○ 学校部会同和研究協議会 (会員数) 331 人、加入率 91.44% (那珂川市立学校職員)	
② 社会教育関係団体へ人権問題研修会の実施を推進します。	○ 人権問題研修会 (参加人数) 行政区 (36 区) 729 人 PTA 及び青少年指導員 102 人 区公民館連絡協議会 180 人 スポーツ登録団体等 130 人 子ども会育成会連絡協議会 52 人 婦人会 50 人 市同和教育研究協議会 269 人 文化協会 41 人	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
那珂川市同和教育研究協議会加入率	95.07%	94.19%	◎

(2) 学校における人権・同和教育の推進		担当課
		学校教育課 教育指導室
○ 児童生徒一人ひとりに人権尊重の心を育み、あらゆる差別をなくすため人権・同和教育の充実に努めます。		
○ あらゆる教育活動において人権・同和教育の視点を持ち、取り組みます。		
主な取組み	実績	
① 各学校の人権を尊重した取組みの共有化・支援を行います。	○ 事業・研修会の開催 同和教育研修会事業 10 校中 10 校	
② 道徳科を中心とした指導及び人権教育学習教材を活用した指導の充実に図ります。	○ 人権学習実施校 10 校 ○ 「かがやき」「あおぞら」「あおぞら 2」を活用した指導 ○ 那珂川市社会科歴史・公民学習カリキュラム改訂のための作成委員会の実施 実施回数 12 回	

成果指標		実績値	目標値	達成状況
全国学力・学習状況調査(注 1) 項目：「人が困っているとき進んで助けている」	小学校	92.2	95.0 (毎年度)	○
	中学校	93.5	90.0 (毎年度)	◎
全国学力・学習状況調査 項目：「いじめは、どんな理由があってもいけないこと」	小学校	97.9	100 (毎年度)	○
	中学校	97.7	100 (毎年度)	○

(注 1) 全国学力・学習状況調査：全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるもの。

2 健やかで「生きる力」を持った子どもが育つまちをつくる

学校教育の充実

一人ひとりを大切にする個に応じた教育により、グローバル化や情報化など、今後の社会動向に対応した時代を切り拓く健やかで「生きる力」を持った児童生徒を育みます。特に ICT 教育に関しては、ICT 機器の活用を通して、情報活用能力を向上させ、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の充実を図ります。

また、楽しく学べる学校づくりを推進するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフの活用や関係機関との連携により、学校の組織力を高め、幼児・児童生徒が快適で学習しやすい環境の形成を図ります。多様化し、ニーズが高まっている特別支援教育については、特別支援教育センターの専門職員による保護者への適切な支援を図るとともに、教職員の研修を充実し専門性の向上を図ります。

(1) 確かな学力の育成		担当課	
		学校教育課 教育指導室	
○ 小・中学校で継続・集中・統一した指導を行い、児童生徒が現在よりも学習に集中できるよう授業改善に取り組みます。 ○ ICT 機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ります。 ○ 小・中学校を通して、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成に努めます。			
主な取組み		実績	
① 各学校において、「深い学びに向かう振り返り」を重視し、児童生徒が「分かる・できる喜び」「考える楽しさ」を実感できる「なかがわスタンダード ^(注2) 」を基本とした授業改善を推進します。		○ 事業・委員会の開催 - 学校運営ヒアリング 各校 2 回 - 学力向上推進委員会 2 回	
② 各学校の学力向上に関する優れた取組みの共有を図るとともに、小・中学校を接続した学力向上を図ります。		○ 研修会の開催 - 授業改善公開授業研修会 1 回 - 学力向上検証部会 1 回 - 学力向上専門部会 1 回	

(注2) なかがわスタンダード：児童生徒が確かな学力を身に付けることができる授業改善を図るため、市内の学校で共通して取り組んでいる「学習の振り返り」を大切にした授業モデルのこと。

③ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を図るための指導・支援を行います。	○ 事業の開催 情報活用能力向上事業 小学校 1 校、中学校 1 校 鍛ほめプロジェクト事業 小学校 1 校
④ 体験型英語学習や ALT を活用し、児童生徒がネイティブな英語に触れるとともに、主体的に英語を活用する機会を確保します。	○ 事業・研修会の開催 体験型英語学習推進事業 北九州グローバルゲートウェイ 小学校全 7 校 イングリッシュイベント 中学校全 3 校 パフォーマンステスト 全 10 校 ALT・小学校英語専科指導教員連絡会 10 回

成果指標			実績値	目標値	達成状況
全国学力・学習状況調査	小学校	国語	9.8 (全国平均 9.4)	全国平均+0.5 ポイント以上 (毎年度)	○
		算数	9.4 (全国平均 9.3)	全国平均+0.3 ポイント以上 (毎年度)	○
	中学校	国語	7.9 (全国平均 7.6)	全国平均+0.4 ポイント以上 (毎年度)	○
		数学	7.9 (全国平均 7.2)	全国平均+0.5 ポイント以上 (毎年度)	◎

(2) 豊かな心の育成		担当課
		学校教育課 教育指導室
○ いじめ等の未然防止と早期発見・早期対応・早期解決に努め、全ての児童生徒にとって魅力ある安全・安心な学校づくりを進めます。 ○ 児童生徒の読書に関する興味・関心を高め、想像力豊かな児童生徒の育成を図ります。		
主な取組み	実績	
① 小・中学校において児童生徒及び保護者にアンケートを実施し、いじめの未然防止と早期発見・早期対応・早期解決に努めます。	○ 会議の開催 いじめ防止等対策委員会 2 回 小・中学校合同不登校対策会議 6 回 校内いじめ不登校等対策会議 各校月 1 回	
② 不登校及び不登校傾向にある児童生徒に対し、学校、教育サポートセンター及びスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等と連携し、不登校及び不登校傾向状態の改善に取り組めます。	○ 連携を図るための事業 小学校スクールカウンセラー配置事業 全 7 校 小・中学校等児童生徒指導支援員配置事業 全 10 校 不登校等専任教員配置事業（中学校）（注 3） 全 3 校 小学校校内サポートルーム専任教員配置事業 全 7 校	
③ 各学校に学校司書を配置し、学校図書館を活かした取組みを実施するとともに、各学校の蔵書率の充実を図ります。	○ 図書司書配置事業 10 人 ○ 読書活動の充実に向けた取組み （小学校）読書リーダー養成講座 30 人 （中学校）読書サポーター養成講座 35 人 ○ 蔵書率 100%以上 普通学級 全 10 校	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合	0%	20%以下 (毎年度)	◎

（注 3）不登校等専任教員配置事業：中学校における不登校等生徒の改善・復帰・解消を目的として、平成 25 年度から全中学校に対して不登校等専任教員を配置し、スクールソーシャルワーカー等と連携して、中学校が一体となった不登校等対策を推進する。

(3) 健やかな体の育成		担当課	
		教育総務課	
		学校教育課	
		教育指導室	
○ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び福岡県児童生徒体力・運動能力調査等の結果を踏まえ、小・中学校における体力向上の取組みを進めます。 ○ 児童生徒の発達段階に応じ、生活安全、交通安全、災害安全などの日常生活全般における安全確保に向けた安全教育を推進します。 ○ 食の安全確保に努めるとともに、食に関する指導を通じた食育の充実支援を行います。			
主な取組み		実績	
① 1校1取組み運動の充実を図ります。		○ 1校1取組み運動実施校	10校
② 学校給食会と連携して小・中学校の食育の充実を図ります。		○ 弁当の日の実施 ○ 研修会等の実施 - 調理員研修会 1回 - 筑紫保健所集団給食施設監視 5校 - 文部科学省調査 1校 - 衛生管理委員会検査 1施設 2校 - 給食料理コンクール 1回 - 食物アレルギー研修会 1回 ○ 学校栄養職員の配置^(注4) 小学校3人、中学校3人	
③ 学年に応じた教科等での指導に加え、防犯教育、交通安全教室、避難訓練などの体験・実践的な安全教育に取り組めます。		○ 安全教室等の実施 - 防犯教室 - 交通安全教室（小学校1年生・4年生） - 避難訓練 ○ 通学路安全点検の実施 - 点検箇所 40箇所 （内訳） - 整備要望 22箇所（福岡県・警察署） - 対応済 15箇所（整備・改修） 17箇所（安全指導等対策検討）	

(注4) 学校栄養職員の配置：県費未配置校への学校配置

成果指標			実績値	目標値	達成状況
全国体力・運動能力、 運動習慣等調査結果	小 学 校	男子	54.45 (全国平均 53.02)	全国平均+0.9 ポイント以上 (毎年度)	◎
		女子	53.43 (全国平均 53.97)	全国平均+0.2 ポイント以上 (毎年度)	▲
	中 学 校	男子	44.21 (全国平均 42.20)	全国平均+4.7 ポイント以上 (毎年度)	▲
		女子	49.52 (全国平均 47.58)	全国平均+3.3 ポイント以上 (毎年度)	△
学校栄養職員の配置校（県費、市費）			10 校	10 校（毎年度）	◎
異物混入件数（重大案件）			0 件	0 件（毎年度）	◎
アレルギー事故件数			1 件	0 件（毎年度）	▲

(4) 幼児教育		担当課
		子育て支援課
○ 地域の自然や未就園児との保育を通じて、幼児期における豊かな生活体験が得られるように取組みを進めます。		
主な取組み	実績	
① 地域の自然や資源を生かした保育を実施します。	○ 園外保育 岩戸小学校1年生との交流 芋ほり体験 アユの放流など 年間 21 回実施	
② 未就園児の保育で子育て支援を実施します。	○ おひさま広場 親子園庭遊び 在園児との交流など 年間 10 回実施	
③ 幼稚園教育の在り方を様々な手法で家庭に伝えます。	○ 園だより 年間 13 回発行 ○ ホームページ 年間 10 回更新 ○ 個別面談 年間 2 回実施	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
園外保育の回数	21 回	15 回 (毎年度)	◎

(5) 特別支援教育の充実		担当課
		学校教育課
○ 多様な就学相談、教育相談に対応するため、特別支援教育センターを核として、学校及び保護者へ適切な支援を行います。 ○ 教育ニーズに応じた指導・支援を行うため、教職員の研修を充実させ、専門性の向上を図ります。		
主な取組み	実績	
① 関係機関と連携した幼児期から小・中学校までの教育相談を実施します。	○ 教育相談の実施	
	就学相談	272 人
	幼稚園等	65 人
	小学校	181 人
	中学校	26 人
	教育相談等	649 件
	幼稚園等	延べ 118 回
	小学校	延べ 418 回
② 特別支援センターを中心に特別支援教育に関する指導・助言を行い、学校における専門性の向上を図ります。	中学校	延べ 113 回
	○ 特別支援学級・通級指導教室設置校数	
	特別支援学級	10 校中 10 校 75 学級
	通級指導教室	10 校中 4 校 7 学級
	○ 研修会の実施	
	特別支援教育支援員研修会	2 回
	特別支援教育コーディネーター研修会	3 回
	特別支援教育研修会	3 回
	社会教育講座子育て講演会	1 回
	那珂川市地域学校協働活動子ども教室研修会	1 回
那珂川市通級指導教室連絡会	3 回	
那珂川市通級指導教室保護者の集い	1 回	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
適切な就学先決定状況	100%	100% (毎年度)	◎

地域とともにある学校づくりの推進

子どもたちが安心して、明るくのびのびと生活できる地域を目指し、地域に開かれた学校を創造するため、学校・地域・家庭との連携・協働により、将来のまちづくりの担い手である子どもたちを大切に育てていくコミュニティ・スクールを推進します。

あわせて、小・中学校の連携を強化するため、中学校ブロックを単位とした拡大コミュニティ・スクールを推進します。

(1) 学校、家庭、地域等との連携・協働		担当課
		学校教育課
○ 学校、家庭、地域がそれぞれの役割を自覚し、連携とともに、地域に開かれた学校運営を促進することで協力・協働の教育活動を創り出します。		
主な取組み	実績	
① コミュニティ・スクール運営委員の研修を実施します。	○ 研修会の実施 コミュニティ・スクール運営委員研修 1回	
② 各学校の特色を生かした学校運営協議会の運営に取り組みます。	○ 特色ある取組み 小中連携によるあいさつ運動 小学生の中学校部活動体験 地域・学校連携による清掃活動 (クリーン作戦)	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
学校運営協議会の年間実施平均回数 (各小・中学校)	4.7 回	4 回	◎

教育環境の充実

また、キャリアステージに応じた教員の指導力を向上させるための研修や、本市の今日的課題に応じた研修を実施するなど、教員の授業力向上や学校経営の活性化を目指します。

あわせて、教職員の業務改善を図り、働き方改革を推進します。

(1) 学校施設の整備・充実	担当課	
	教育総務課 学校教育課	
○ 那珂川市学校施設等長寿命化計画等に基づき、国の補助金等を活用しながら計画的に学校施設の整備・改修を行います。 ○ プログラミング教育や情報教育の充実のため、タブレット等の適切な運用管理を行います。		
主な取組み	実績	
① 施設の維持管理を行います。	○ 校舎等外壁劣化調査及び劣化部補修 南畑小学校 校舎及び体育館 那珂川南中学校 体育館 ○ 校内放送設備改修工事 岩戸小学校 那珂川南中学校	
② 児童生徒 1 人 1 台端末の適切な運用管理を行います。	○ 修繕対応件数	420 件

成果指標	実績値	目標値	達成状況
児童生徒 1 人 1 台端末の整備状況	100%	100% (毎年度)	◎

(2) 専門性の高い教員の育成	担当課
	学校教育課 教育指導室 教育総務課
○ 国や県の研修の実態を踏まえ、教員一人一人のキャリアステージに応じた資質・能力の向上を図ります。 ○ 本市の教育課題に応じた研修を実施します。	
主な取組み	実績
① 教育力向上のために、ICT 教育の充実を図り、教育課題に応じた研修を実施します。	○ 研修会の実施 ICT 推進委員研修会 5 回 新転任者生成 AI 活用力向上研修 10 校 デジタルシティズンシップ研修会 10 校 初任者・若年教員・講師等 1 日留学研修 10 校 授業改善公開授業研修会 10 校 特別支援教育コーディネーター研修会 3 回 特別支援教育研修会 10 校
② 「那珂川市立小・中学校教職員の働き方改革に関する方針」に基づいた働き方改革を推進し、教職員の心身の健康保持、向上を図るとともに、児童生徒と向き合うための時間及び教育職員の専門性を高めるための研究と修養の時間の確保を図ります。	○ 学校閉庁日の実施 実施期間 夏季、秋季、冬季 計 3 回 実施日数(土・日・祝日含む連続した日数) 夏季 11 日 秋季 4 日 冬季 10 日 ○ 統合型校務支援システムの活用

成果指標	実績値	目標値	達成状況
教員が ICT 機器の使い方を学ぶために必要な研修の実施	100%	100% (毎年度)	◎
年休取得日数	13 日	18 日 (毎年度)	△

(3) 就学の支援		担当課
		学校教育課
○ 経済的理由により学校での学習等に必要な費用の負担が困難な児童生徒の保護者に就学費用を援助します。		
主な取組み		実績
① 就学援助による支援を推進します。		○ 支援者数 小学校 639 人 中学校 374 人 ○ 全児童に対する就学援助率 小学校 20.7% 中学校 22.8%
② 就学援助制度の周知を図ります。		○ ホームページでの制度周知 ○ 広報誌での周知 広報 1 月号掲載（就学援助入学準備金） ○ 各学校での周知 入学説明会でのチラシ配布（新 1 年生） 新学期 4 月にチラシ配布（在校生）

成果指標	実績値	目標値	達成状況
—	—	—	—

3 市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる

社会教育の推進

生涯にわたって健康を維持し、学習することで生きがいを持ち続けたいという市民のニーズに対応するため、社会教育活動のさらなる充実を図ります。

(1) 学校を核とした地域づくりの推進		担当課
		社会教育課
○ 地域学校協働活動事業を推進します。		
主な取組み	実績	
① 地域学校協働活動推進員が中心となり、地域の協力のもと、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図ります。	○ 地域学校協働活動推進員 市内各小学校 74 時間/校 延べ9人 ○ 地域学校協働活動推進員及び地域コーディネーター等研修会 参加人数 34 名	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
地域主催の放課後子供教室実施回数	15 回	15 回	◎

(2) 子どもの居場所確保		担当課
		社会教育課
○ 子どもたちの安全・安心な居場所づくりを推進します。		
主な取組み	実績	
子ども同士や大人や高齢者とのコミュニケーションの場となる放課後子供教室を実施します。	○ 安徳小学校	開催日数 26 回 参加者数延べ 918 人
	○ 片縄小学校	開催日数 27 回 参加者数延べ 804 人
	○ 南畑小学校	開催日数 26 回 参加者数延べ 258 人
	○ 岩戸小学校	開催日数 33 回 参加者数延べ 301 人
	○ 岩戸北小学校	開催日数 28 回 参加者数延べ 993 人
	○ 安徳北小学校	開催日数 27 回 参加者数延べ 293 人
	○ 安徳南小学校	開催日数 25 回 参加者数延べ 702 人
	○ たんぽぽアンビシャス広場（安徳北小学校）	開催日数 74 回 参加者数延べ 407 人
	○ 那珂川北中アンビシャス広場	開催日数 114 回 参加者数延べ 722 人

成果指標	実績値	目標値	達成状況
放課後子供教室開催回数	380 回	269 回	◎

(3) 家庭の教育力の向上		担当課
		社会教育課
○ 生活習慣の定着や豊かな情操、善悪の判断、社会的なマナー、自制心や自立心など「生きる力」となる基礎的な資質や能力を育成するため、家庭教育学級の充実を図ります。		
主な取組み	実績	
① 家庭教育学級に登録した方に対する体験講座や親子講座のほか、子育てに関心のある市民を対象とした公開講座を実施します。また、家庭教育学級のプレ講座として乳幼児の保護者を対象にした乳幼児講座も実施します。	○ 講座数 20 講座 ○ 学級生登録者数 52 人	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
学級生登録者数	52 人	100 人 (毎年度)	△

(4) 青少年の健全育成		担当課
		社会教育課
○ 青少年の非行の防止、保護及び健全育成を図るため、青少年指導員会と連携を図ります。		
主な取組み	実績	
① 青少年指導員による巡回パトロールを実施します。	○ 巡回パトロールの実施 79 回	
② 青少年指導員同士の連携を図るため、青少年指導員会を実施します。	○ 青色回転灯装備車両出動台数 延べ 189 台	
	○ 青少年指導員会の実施 2 回	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
巡回パトロール実施回数	79 回	84 回 (毎年度)	○

(5) 社会教育関係団体の連携強化		担当課
		社会教育課
○ 社会教育関係団体の連携強化を図ります。		
主な取組み	実績	
① 社会教育関係団体と連携強化を図り、活動支援を行います。	○ 恵子児童館子ども祭り 1 回 (那珂川市子ども会育成会連絡協議会、スポーツ推進員) ○ 人権研修 1 回 (那珂川市立小・中学校 PTA 連絡協議会 青少年指導員) ○ 青少年非行防止・防犯スクラム作戦 1 回 (那珂川市立小・中学校 PTA 連絡協議会 青少年指導員)	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
社会教育関係団体の連携回数	3 回	5 回	○

(6) 国際交流の推進		担当課
		社会教育課
○ 様々な国の生活や文化の違いを学び、互いに関心を深められるよう、市民の国際交流活動を支援します。		
主な取組み	実績	
① 国際文化交流サークルの支援をします。	○ サークル主催事業 日帰り交流会 62 人 (外国人：36 人、日本人：26 人) 春の交流会お別れパーティー 51 人 (外国人：19 人、日本人：32 人)	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
国際文化交流サークル事業への参加者数	113 人	100 人	◎

生涯学習の推進

生涯学習のさらなる充実を図るため、多様な学習機会の提供や施設の整備等、誰もがいつでもどこでも自由に学び、活動できる場の充実に努めます。

(1) 多様な学習機会の提供		担当課
		社会教育課
○ 生涯学習機会を提供するため、家庭教育学級や高砂大学等の生涯学習の充実を図ります。		
主な取り組み	実績	
① 家庭教育学級を実施します。	○ 家庭教育学級 登録者 52 人 20 講座 延べ受講者数 266 人	
② 高砂大学を実施します。	○ 高砂大学 受講生 117 人 55 講座 延べ受講者数 1,128 人	
③ 出前講座を実施します。	○ 出前講座 (56 講座) 申請 28 件 受講者 1,081 人	
④ 市民聴講生制度を実施します。	○ 市民聴講生制度 聴講生 4 人 (小学校 1 人、中学校 3 人)	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
高砂大学受講者数	117 人	244 人	▲

高砂大学：おおむね 60 歳以上の市内在住の方を対象に月 1 回の学びを通して心豊かな人生を送るきっかけになる講座（教養講座と趣味講座の 2 種類あり）

市民聴講生制度：地域の大人が市内の学校（小・中学校）のクラスに入り子どもたちとともに学校の教科を学習する制度

出前講座：市職員が講師となり、市民へ市政に対する理解を深めてもらうために分かりやすく説明するもの

(2) ミリカローデン那珂川、市立公民館などの施設の整備・充実		担当課
		社会教育課
○ 指定管理者制度を活用して、ミリカローデン那珂川の積極的な活用を図ります。 ○ 市立公民館の積極的な活用を図ります。		
主な取組み	実績	
① ミリカローデン那珂川の積極的な活用を図ります。	○ ミリカローデン那珂川を利用したことがある人の割合 76.0%	
② 市立公民館の積極的な活用を図ります。	○ 利用者数（R7.3月末） 中央公民館 27,228 人 北地区公民館 10,141 人 南地区公民館 2,584 人 東地区公民館 11,032 人 計 50,985 人	
③ 市立公民館を計画的に改修します。	○ 中央公民館トイレ等改修工事が完了した。	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
住民意識アンケート （ミリカローデン那珂川の利用経験）	76.0%	80%以上 （毎年度）	◎
市立公民館利用人数	50,985 人	72,584 人	△

(3) 読書活動の推進		担当課
		社会教育課
○ 「那珂川市子どもの読書活動推進計画」に基づき、家庭や地域、幼稚園・保育所（園）や学校、図書館等における読書活動を支援するとともに、関係機関等との連携を図ります。 ○ 「那珂川市図書館運営方針」に基づき、誰でも気軽に利用でき、市民に親しまれる、愛される地域の図書館づくりを進めます。		
主な取組み		実績
① 子どもの読書活動の普及・啓発を推進します。		○ 子どもの読書活動推進スキルアップ研修の実施
② 地域図書づくりを推進します。		○ 那珂川市図書館から市立公民館（中央・北地区・南地区）に借り受けた図書の冊数 （団体貸出：移動図書事業 4,500 冊） （団体貸出：テーマ展示 300 冊） 延べ 4,800 冊

成果指標	実績値	目標値	達成状況
本を読むことが「好き」「どちらかといえば好き」な児童生徒の割合 （子どもの読書活動に関するアンケート）	82.8%	83.6%	○

スポーツの推進

年齢や性別、障がいの有無に関係なく、すべての人が安全で快適にスポーツを楽しみ、健康増進や交流、憩うことができる総合運動公園の整備に取り組みます。

また、健康増進や競技スポーツのレベル向上など、スポーツの推進を図るため、既存の社会体育施設等の計画的な改修によりスポーツ活動の環境を整備するとともに、スポーツ活動を推進するため、市民のスポーツ活動を支える団体の育成・支援に取り組みます。

(1) 運動公園の整備		担当課
		スポーツ課
○ 市民の健康増進やスポーツ活動等の場の充実を図ります。 ○ スポーツの振興を図るため、活動の場の提供と既存施設の環境整備を推進します。		
主な取り組み		実績
① 総合運動公園の整備を進めます。		○ PFI 事業の推進 (事業者契約締結)

成果指標	実績値	目標値	達成状況
総合運動公園の供用開始 (供用開始に至るまでの進捗率)	進捗率 30% (事業者契約)	進捗率 100% (供用開始)	▲

(2) スポーツ施設の整備		担当課
		スポーツ課
○ 市民の健康増進やスポーツ活動等の場の充実を図ります。 ○ スポーツの振興を図るため、活動の場の提供と既存施設の環境整備を推進します。		
主な取り組み		実績
① スポーツ施設の改修と活動の場を提供します。		○ 社会体育施設・学校体育施設利用状況 延べ利用人数：223,518 人

成果指標	実績値	目標値	達成状況
施設の利用者数 (合計)	223,518 人	254,600 人	○

(3) 市民スポーツ活動を支える団体の育成		担当課
		スポーツ課
○ スポーツ協会、スポーツ少年団と協働して、スポーツ団体の育成・市民のスポーツや健康に対する意識の高揚を図ります。		
主な取組み	実績	
① スポーツ活動と大会を支援します。	○ 各種大会の実施 水泳競技大会参加者 368 人 健康スポーツフェスタ参加者 956 人 走ろう大会参加者 579 人	
② スポーツ推進委員主管事業及び派遣事業を実施します。	○ ニュースポーツ体験広場 17 回 ○ スポーツ推進員派遣回数 172 回	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
スポーツ大会の参加者数（合計）	1,903 人	3,000 人	△

4 歴史・文化・芸術を通じた多彩な交流を広げる

文化・芸術活動の充実

豊かな心を育み、活気あるまちづくりにつながる文化・芸術団体の活動を支援するとともに、文化・芸術イベントなど、多くの人々が文化・芸術を通じて交流できる機会の充実を図ります。

(1) 文化・芸術団体の育成・支援・連携		担当課
		社会教育課
○ 豊かな心を育み、活気あるまちづくりにつながる文化・芸術団体の活動を支援するとともに、文化・芸術イベントなど、多くの人々が文化・芸術を通じて交流できる機会の充実を図ります。		
主な取組み	実績	
① 市民文化祭を実施します。	○ 市民文化祭出演者・出展者の人数 参加 94 団体 来場者 2,952 人 出演・出店・バザー・関係者 1,734 人 合計 4,686 人	
② 市の文化活動を支援します。	○協働活動の内容 ・五月の祭典 参加 36 団体 来場者 約 1,148 人 出演・出店・関係者 494 人 合計 約 1,642 人 ・竹の里のフェスタ コンサート来場者 約 450 人 出店・協力 6 団体 ・元気アップスクール 全 5 回 合計 130 人 ・役員・理事研修	
③ 市民・地域等との連携を図ります。	○ 裂田溝ライトアップの実施 協力団体数 12 団体 展示団体数 34 団体 出店・出展団体数 15 団体 来場者 約 7,000 人	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
事業の参加団体数	197 団体	190 団体	◎

歴史遺産の保存とまちづくりへの活用

歴史遺産の保存・活用を通じ、歴史遺産に触れる楽しみ、学習する喜びを市民や来訪者に提供するとともに、歴史遺産を活かしたまちづくりに取り組みます。

(1) 歴史・文化の保護と継承		担当課
		文化財課
○ 貴重な歴史遺産を保護するとともに、次の世代に継承するための活動等を支援します。		
主な取組み	実績	
① 保存団体が抱える課題について、それらの解決に向けた連携を充実させるために協議を進めます。	○ 課題解決に向けた協議の実施 実施回数 5回	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
協議の実施回数	5回	2回	◎

(2) 文化財を活用したまちづくりの推進		担当課
		文化財課
○ 本市の歴史遺産に関係した歴史講座やイベントを実施することで、市内外へ本市の歴史・文化の魅力を発信し、交流人口の拡大を図り、文化財を活用したまちづくりを推進します。また、市内の歴史関係団体等との連携を強化します。		
主な取組み	実績	
① 歴史遺産を活用した様々な啓発事業を実施します。	○ 啓発事業の実施 実施回数 50回 参加者数 延べ8,727人	
② 歴史関係団体と連携して文化財保護事業等を実施します。	○ 連携して実施した文化財保護事業 連携事業数 2件 事業名：那珂川黎明 2025 西の都連携事業	

成果指標	実績値	目標値	達成状況
啓発事業等への参加者数	8,727人	1,966人	◎
連携して実施した文化財保護事業数	2件	2件	◎

第3章 点検・評価の総括

1 多様な市民の人権を尊重した社会をつくる

部落差別をはじめとするあらゆる差別解消のため、市民及び社会教育関係団体を対象とした人権・同和問題に関する研修会の開催を支援することで、地域における人権・同和教育と啓発を推進するとともに、那珂川市同和教育研究協議会と連携・協力し、人権意識を高め、行動できる職員の育成に取り組みました。

また、「那珂川市人権を尊ぶまちづくり条例」や「那珂川市部落差別の解消の推進に関する条例」の趣旨に則り、那珂川市で作成している「社会科歴史・公民学習カリキュラム」、福岡県が作成している「同和教育副読本」や「人権教育学習教材」などを活用し、学校における人権・同和教育を推進しました。

今後も人が人として尊重される人権意識を育み、あらゆる差別の解消のために、これまでの取組みを継続していきます。

2 健やかで「生きる力」を持った子どもが育つまちをつくる

ICT 機器の活用、英語教育の推進、いじめ等の未然防止と早期発見、小・中学校における食育や体力向上の取組みなどにより「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成に努めました。「確かな学力」の育成については、なかがわスタンダードに基づいて各学校で実践してきました。また、特別な支援が必要な児童生徒の教育ニーズに対応することにより特別支援教育の充実に努めました。不登校及び不登校傾向にある児童生徒への支援については、小学校スクールカウンセラーや児童生徒指導支援員、中学校への不登校等専任教員及び小学校への校内サポートルーム専任教員を配置することにより、小・中学校接続期に焦点を当てた取組みの充実に努めました。引き続き、各種取組みを推進することで、児童生徒の個に応じた教育の推進や主体的・対話的で深い学びの充実を図っていきます。

また、幼児期にふさわしい遊びや生活の中で、友達や未就園児、地域の方など様々な方と関わったり、地域の自然に触れたりする、豊かな直接体験ができました。この経験により、健やかでたくましい「生きる力」の基礎となる資質・能力を育んでいきます。

3 市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる

高砂大学や家庭教育学級、及びスポーツフェスタや各種スポーツ大会などを実施し、市民の学習活動・交流活動、スポーツ活動の場の充実を図りました。また、地域学校協働本部やスポーツ少年団など市民活動団体と連携し、子どもが地域とのふれあいを通して自主性・社会性を育む環境を提供しました。読書活動推進事業では、「第3次那珂川市子ども読書活動推進計画」に基づく、子どもたちの読書環境の実態把握や家読推進事業を実施しました。

今後は、令和7年4月に全館グランドオープンした「ミリカローデン那珂川」を活用し、誰でもどこでも自由に学び、活動できる場の充実に努めます。また、スポーツ活動を通じた健康づくりと交流の場の提供に向け、総合運動公園の整備を着実に進めます。

4 歴史・文化・芸術を通じた多彩な交流を広げる

文化芸術活動や文化芸術団体への支援を通じて、豊かな心を育み、活気あるまちづくりにつなげることが出来ましたが、民俗芸能を継承していくための、次世代を見据えた担い手等の育成が大きな課題となっています。このため、市内小学校への出前講座の実施等、活発な活動を行うとともに、保存団体との連携強化を図っていきます。

また、歴史関係団体と連携して、本市にある国史跡や日本遺産候補地域「西の都」を活用し、幅広い年齢層を対象にした啓発事業も企画実施しています。次年度以降は、「那珂川市文化芸術推進計画」の基本理念も踏まえ、啓発事業の検証とブラッシュアップを行うとともに効果的な情報発信に注力し、歴史や文化財に触れる機会の充実を図っていきます。

第4章 学識経験者による講評

1 報告書全体を通した講評

那珂川市教育委員会では、令和3年度の教育大綱に掲げた「誰もが学び、育むまちづくり」を目指し、9つの基本施策の柱を設定し教育行政を推進している。目標の実現に向けて、関係諸機関・団体との連携を深め、広く市民の理解と協力を得ながら、那珂川市の特色を打ち出した教育の振興充実に取り組んでいることに敬意を表したい。

2 個々の施策の講評

(1) 多様な市民の人権を尊重した社会をつくる

文部科学省第4期教育振興基本計画には、教育方針の一つとして「誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」が謳われている。人権教育は、生涯学習の視点に立って、幼児期からの発達段階を踏まえ、地域の実情等に応じて、学校教育と社会教育とが相互に連携を図りつつ実施されるものである。那珂川市教育委員会では、共生社会の実現に向け、社会教育と学校教育が連携して、地域及び学校における人権・同和教育と啓発が着実に推進されている。令和7年度から、学習指導要領を踏まえ、歴史への理解の深化を意図して、作成委員会を中心に「那珂川市社会科歴史・公民学習カリキュラム」の改訂に向けた取組みが行われている点は評価できる。

(2) 健やかで「生きる力」を持った子どもが育つまちをつくる

全ての小・中学校が、「なかがわスタンダード」を基本として授業改善に取り組んでおり、それが全国学力・学習状況調査で全国平均を超える結果につながっている。また、ICT・AIに係る研修会を受講した教員が、ICTを活用して積極的に児童生徒の情報活用能力の向上を図っている。「北九州グローバルゲートウェイ」や「イングリッシュイベント」等の体験型英語学習推進事業を実施する等、児童生徒が英語を活用する機会を確保していることも素晴らしい。特別支援教育の充実については、特別支援教育センターを核として、細やかに就学相談等を実施しており評価できる。不登校及び不登校傾向にある児童生徒に対して、学校、教育サポートセンター、SC、SSW、不登校等専任教員、小学校校内サポートルーム専任教員が連携し、細やかに相談・指導等を行っている。いじめについては、「那珂川市いじめ防止基本方針」に基づき、今後も未然防止・早期発見・早期対応・早期解決に努めていただきたい。

健やかな体の育成については、安全教育が推進され学校給食の充実が図られるとともに、体力向上のための「1校1取組運動」が実践されており評価できる。幼児教育において、意図的に園外保育を取り入れていることも望ましい。学校運営協議会の実施回数も増え、地域とともにある学校づくりが推進されていることがうかがえる。

（３）市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる

各小学校等で開催された「放課後子供教室」は、子どもたちにとって、大人・高齢者とのコミュニケーションが図られる、安全安心な居場所となっている。「高砂大学」については、受講者数が目標値に到達しなかったが、高齢者にとって貴重な学びの場であることをPRして今後受講者の増加に努めていただきたい。国際文化交流サークル事業への参加者数が増え、市民の国際交流活動がいっそう活性化している。「ミリカローデン那珂川」については、市民の生涯学習の拠点として、利用促進が図られている。総合運動公園については、事業者との契約締結を終え、着実に整備が進んでいる。

（４）歴史・文化・芸術を通じた多彩な交流を広げる

市民文化祭・竹の里フェスタ・裂田溝ライトアップをはじめとする、那珂川市ならではの文化・芸術活動や歴史遺産啓発事業が推進されている点はすばらしい。歴史遺産を活用した啓発事業の強化により、大幅に参加者数が増加したことに加え、関係団体と連携した文化財保護事業「那珂川黎明 2025」「西の都連携事業」が実施されたことも評価できる。令和6年度に策定された「那珂川市文化芸術推進計画」の下、「ひろげる」「ささえる」「つなぐ」という3つの方向性に則り、取組みが一層進展されることを期待したい。

福岡女学院大学 人文学部現代文化学科
教授 相良 誠司